

長瀬の民有林で 初業務の森林整備

秩父地域コンパクト
林業推進協議会

秩父地域コンパクト林業推進協議会は7月28～31日、長瀬町井戸の民有林で、初の業務としての森林整備を実施した。

同協議会は間伐などを自ら行う自伐(じ)は(じ)型林業者を中心として1月に設立。同林業は山への負荷を最小限にとどめつつ、山からの恵みを享受して経済的にも自立する、小回りが利き熱意がある新たな林業モデルと定義している。

29日には会長の山口能邦さん(38)や市域おこし協力隊の大熊浩史さん(29)、会員の大熊浩史さん(29)、湯本仁吾さん(32)、張本高弘さん(54)が参加。講師は原田

勤さん(48)が務め、実際にスギやクヌギを伐採しながら技術を丁寧に教えた。

山口さんは「木を切って出して終わりにするのではなく、会員を育てながらこれからの山づくりにについても考えていきたい」と話していた。

(桜井和憲)



伐採方法について指導する原田勤さん(中央)。29日午前10時20分ごろ、長瀬町井戸の民有林